



【写真は遺族提供】

かの しゅうほう
狩野 琇鵬（芸術） 故人

昭和12年（1937年）1月 2日 生

平成28年（2016年）7月24日 没

（享年79歳）

狩野氏は熊本市で生まれる。中学入学と同時に、友枝家に入門。県立第一高等学校卒業後、東京の喜多流宗家に内弟子に入り修業に励んだ。昭和37年、15世喜多流宗家の下で、喜多流職分・能楽協会会員となった。昭和61年には、重要無形文化財保持者に認定された。

氏は、昭和41年喜多流の塩津哲生氏とともに能楽研究団体「三ツの木の家」を設立し、若者を始めとした熊本の人々への能楽普及に尽力した。また「能どころ」といわれる熊本で、県内の小中学校を回り、能の体験教室を開催した。他にも能の普及活動を通じて、社会貢献にも取り組んだ。健軍神社で毎年行われる「花の薪能」は、雲仙・普賢岳噴火の被災者支援で始められ、その後ユニセフの活動に協賛し、アフリカの子供たちの支援等に役立てられている。

一方能楽の海外普及にも力を尽くし、多数の実績をあげた。その活動はフランス、ドイツ、ポーランド、アメリカからカンボジア、ベトナム等アジア地区にも広がり、国際交流に大いに貢献した。特にフランス・エクサンプロバンス市にはヨーロッパで唯一の本格能楽堂を自費で寄贈した。平成6年に柿落とし能公演を行い、以降ほぼ毎年公演指導を重ね交流を深めた。そのことがきっかけとなり、平成25年には熊本市とエクサンプロバンス市で交流都市協定が締結された。

一方、新作の発表にも力を注ぎ、熊本城築城400年記念の創作「熊本能—清正—」、フランス初演の「ジャンヌダルク」、他にも「五輪書—武蔵伝」などのオリジナル作品を発表し、能楽の芸術としての発展にも力を注いだ。

これらの功績から、くまもと県民文化賞、地域文化功労者表彰、熊本県文化懇話会賞、国際ソロプチミスト千嘉代子賞、熊日賞、仏芸術文化勲章コマンドールなど多数の賞を受賞している。

- | | |
|-------|----------------------------|
| 昭和33年 | 喜多流宗家（東京）に入門 |
| 昭和37年 | 喜多流職分・能楽協会会員となる |
| 昭和61年 | 重要無形文化財「能楽」の保持者認定 |
| 平成5年 | 仏エクサンプロバンス市へ能舞台を寄贈 |
| 平成20年 | 熊本城築城400年記念 新作能「熊本能—清正—」発表 |
| 平成24年 | 新作能「ジャンヌダルク」発表 |